

開山1300年、東北屈指の古刹。

山間を分け入るように入んだ先に若松寺(じやくしやうじ)はある。平成20年に開山1300年を迎えた古刹で、奈良時代の和銅元年(708)、行基菩薩によって開山。その後、貞観2年(860)に山寺立石寺を開山した慈覚大師(円仁和尚)の手で御堂が山頂付近から現在の場所に移された。その経緯から開山が行基菩薩、中興の祖を慈覚大師として祀っている。

若松観音(こちらは「わかまつ」と読む)という愛称でも親しまれ、花笠音頭の歌詞の一節に「めでためだの若松さまよ、枝も栄えて葉も茂げる」と謳われる「若松さま」がここ。境内には、歌詞を刻んだ石碑も建つ。最上三十三観音の第一番札所でもあり、年

間を通して多くの参拝者が訪れている。

良縁を成就させてきた、そのご利益と住職の手。

そんな名利が、いま全国から注目を集めている。理由は、縁結びのご利益だ。そもそも若松寺は縁結びの観音様として知られていたが、あるエピソードをきっかけに知名度は一気に全国へ広まった。

それは、テレビ番組のロケでタレントが住職と握手した後、良縁に恵まれ結婚したというものだ。訪れたのが昨年9月、婚姻届けを提出したのが今年5月。スピードもさることながら、そのタレントが山田花子さんだったこと。失礼ながら結婚とは対局のキャラだっただけに、放映を観た女性が良縁を求めて殺到するの十分な「ご利益」だった。単なる祈願ではなく、住職と

鈴の音に誘われて山に分け行った行基菩薩が開山した。当代きつての良縁スポットで、縁を見つけてきた住職に会う。

西の出雲、東の若松。花笠音頭でも謳われる、縁結び観音へ。

握手をすることもインパクト。「両手をしっかりと繋ぐことで、伝わり、感じることもある」と住職。握手した人数はかれこれ2000人になる。

自分を変えるのは自分、気付きもご利益のひとつ。

握手をしながら、住職は言葉をかける。なかには「まだ遠いようです」そんな場合もある。感じたことがそのまま伝えられる。

「まだまだ、と感じてそうお話しした方が3ヶ月後に結婚。正直、驚きました」もちろん嬉しいサプライズだったが、報告に来た当人に会うとさらなる驚きがあった。「手から伝わる印象も、顔つきもまるで変わったんです」縁結びを標榜する寺の住職のパワーもあつただろう。しかし願いに向かって真っ直ぐ進むことで自分で自分を変えた。その気持ちの変化もご利益のひとつな

境内にはたくさんの絵馬が奉納されている。写真は秘仏の「聖観音菩薩立像」、「金銅聖観音像懸仏」、「板絵著色神馬図」は国指定重要文化財。



のである。

若松寺では毎月第1日曜日「縁むすび祈願祭」を開催。観音堂で縁結びを祈願し、その後法話を聞くというもので、開催のたびに参加者も拡大中。良縁成就のご利益を期待しつつ、願いを叶えるための自分自身の第一歩として、見逃せ

ない機会だ(祈願料1000円、この催しの間合せ・連絡先は023-653-1680、天童市観光情報センター)。7月11日には「四万八千日大功德日」として、この日に参拝すれば4万8000日の日参に等しいご利益があるとされる日も到来する(ご祈禱料2000円)。



鈴立山若松寺の氏家栄脩住職。ひっきりなしに訪れる良縁祈願の参拝者の対応で大忙し。参拝時は在不在の確認を。ちなみに参拝者数は2003年が約6.8万人だったものが、2008年には4倍近い26.2万人まで増えたという。



鈴立山 若松寺

山形県天童市大字山元2205-1
☎023-653-4138
JR天童駅から約8km、車で約15分

